

所属ゼミ	高木研究会	学籍番号	89728492	氏名	佐藤 奈穂子
(論文題名)					
<p>フラット組織化の理論と実際 －日本の大企業の場合－</p>					
(内容の要旨)					
<p>本論は、近年フラット組織化が進んでいる日本の大企業における効果的な変革プロセスについての考察を試みたものである。</p> <p>まず文献研究により、日本企業の階層組織は米国企業のような厳密な規則の体系ではなく、日本企業においては、人脈をベースとしたネットワークが利用され、より自律的な活動が可能であり、組織図は同様でも日米でマネジメント方法が異なることを確認した。米国の組織変革はトップ主導型で進められるが、日本の大企業では意思決定方法がトップダウンではないために、米国型の変革は受け入れられにくく、組織のフラット化プロセスは米国企業とは異なることが予想された。</p> <p>本論では、典型的な日本の大企業である鉄鋼N社の組織フラット化の事例研究をもとに、日本企業において特徴的な現象について分析している。インタビュー調査から、同社の変革過程は米国流のトップダウンではなく、組織の中から創発される漸進的な変化であることが見出された。また変革の鍵となる中間管理職にかかる負担に注目することにより、日米それぞれのフラット化プロセスが推定された。N社の事例研究から、日本の大企業では、米国企業のようなトップ主導型の急激な変革を行うのは難しいが、その一方で日本企業固有の性質である自己組織性を利用して、中間管理職に主体性を持たせることによって、より自然な形で組織を変化させることが可能であるという、日本の大企業を変革する一つの可能性が示された。</p>					